様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２１ 日現在

機関番号：２３９０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０４８９

研究課題名（和文）医療分野スペイン語の実践と教育に関する研究

研究課題名（英文）A Study about Education and Practices on Medical Spanish

研究代表者
糸魚川　美樹（ITOIGAWA, Miki）

愛知県立大学・外国語学部・准教授

研究者番号：１０４０５１５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究を通して、次の考察を行った。１、スペイン語医療通訳経験者と意見交換の機会を設け、この分野に不足している教材、医療通訳者をとりまく現状について議論した。参加者の協力により、スペイン語中級レベルの講座を対象とした新しいタイプの医療通訳教材開発に着手した。とくに異なる医療文化理解とその知識の身に着け方に注目して試作版を作成し、現在いくつかの講座で試用されている。医療通訳の現状については、すでにいくつかの学術雑誌で発表した。２、日本と同時期に爆発的に外国籍移民が増加したスペインの異文化メディエーション事業について聞き取り調査を実施し、日本の医療通訳と比較考察したものを学術書の一部として発表した。

研究成果の概要（英文）：A trainees selection system, didactic materials and practical courses were designed, implemented and evaluated towards setting up an effective training program for medical interpreters. For that purpose, interviews and meetings with practicing interpreters (Aichi Medical Interpretation System and MIC Kanagawa) were conducted in order to establish educational priorities and to gain information about doctor-patient communication. Didactic materials were then designed that focused not only to the teaching of terminology and grammar but also offered resources to future interpreters to became autonomous professionals. In role-plays, special attention was paid to ethical and multicultural issues that accompany their work. Particularly, intercultural mediator profile was analyzed (research published), and their techniques incorporated to course content. The new course, tested in Aichi, was highly valued but more efforts should be made to improve interpreter formation and work conditions.

研究分野：スペイン語圏社会言語学

キーワード：スペイン語　医療　医療通訳　移民　異文化メディエーション

１．研究開始当初の背景

日常生活の場面で日本語運用能力が十分でない外国籍住民が一部の自治体で急増した。とくに住民の生命にかかわる医療の分野では、住民の母語による対応が求められている。国家レベルで医療通訳制度は存在しないが、外国人集住地域では独自に医療通訳者の養成と認定を進めている。神奈川県、京都市につづき、2012 年愛知県でも医療通訳派遣サービス（あいち医療通訳システム）の本格的な運用が始まっている。

また、この問題を学術的にとらえ支援していこうという動きも強まっている。医療通訳研究会が 2002 年に発足し、2009 年には「医療通訳士に対する適正な報酬と身分を保障するための制度の整備と、医療通訳士の技術向上のための活動を行うことを目的」とした医療通訳士協議会が設立された。これらの研究会・学会では、研究者だけでなく、国際交流協会、医療・司法分野における実務者、教育研究者などがつどい、実践を伴った理論展開がすすんでいる。大学においても、愛知県立大学が大学としては初めて外国人医療支援における人材育成のための講座を立ち上げ、社会人を対象として医療分野ポルトガル語・スペイン語講座を 2007 年度から開講している。同大学の実践および成果の一部が、先にあげた「あいち医療通訳システム」の運用開始にいかされており、大学という教育研究機関が地域のニーズを先取りした好例となったといえる。「あいち医療通訳システム」は愛知県内のいつかの大学の協力のもと運営されており、教育研究機関と自治体との連携という意味でも画期的な運用体制をとっている。また、東京外国語大学は「多言語・多文化社会専門人材養成講座」の開講、2011 年 3 月の東日本大震災直後「多言語災害情報支援サイト」を立ち上げ、日本語を含めた 22 言語で情報提供を行うなど、情報弱者に対する情報保障支援に貢献している。

２．研究の目的

現在一部の自治体で運営されている医療通訳派遣業務は通訳者養成のための研修、選考（能力試験等）も行っており、教材も各自治体で作成されている。経済産業省の「医療の国際化」推進とも関わり、今後医療通訳認定制度が国レベルで確立した場合、その人材育成が大学に移行していくこと、または大学院において多言語社会で活躍する高度専門職業人養成を実施するケースも増加することが予想される。以上のように、医療通訳の需要が実質的にも制度的にも増加する可能性があるなかで、本研究は、医療分野スペイン語について、スペイン語学、医療分野スペイン語の実践、スペイン語教育の 3 つの側面から考察をすすめ、医療分野スペイン語を総合的にとらえ、その習得と使用の実態を把握する。また、専門分野外国語の教授法に関する考察とより高度なレベルを対象とした医療分野スペイン語学習のための教材の開発をすすめる。さらに、日本と同じ時期に移民人口が急増し、医療通訳で類似した問題を抱えるスペインの事例と比較する。

３．研究の方法

あいち医療通訳システム登録通訳者との意見交流会、スペイン語医療通訳を養成／派遣している医療通訳事業団体への調査を実施し、スペイン語医療通訳者の養成、派遣の実態と課題を把握する。医療通訳者に対するアンケート、聞き取りから、医療通訳に必要な教材について把握する。

スペインにて、異文化メディエーション事業を実施する団体、異文化メディエーター個人に対するインタビュー調査を実施し、外国籍移民に対する支援の実態と課題を把握する。

４．研究成果

(1)日本では珍しい県主導によって 2011 年試行的運用が開始（2012 年本格運用開始）したあいち医療通訳システムは、検討協議会設立から本格的運用までが短期間に進み、運用開始後年々その実績を伸ばしており、派遣先である協定医療機関数、通訳登録者数、派遣数が増加している。また医療機関からの評価も高い。これは、自治体、地域の大学、民間事業者という三者からなる組織で、それぞれが得意とする分野の役割分担を明確にし運用しているからと考えられる。しかし一方で役割分担が明確であることが、それぞれに関連している分野での連携不足をうみだしているともいえる。とくにそれが顕著にあらわれているのが、通訳者へのサポートという側面である。医療通訳者との意見交換会では、つぎのような意見が出された。

①初回派遣にも関わらず重篤なケースが割り当てられる

②派遣の際に提供される情報が少ない

③システムの実績や現状についての情報が提供されない

④現場研修後ほかの登録通訳者たちと会う機会がなく、通訳者どうしのネットワークがない

（糸魚川 2015b,220-221）

派遣後に生じた問題や通訳者が抱える疑問を把握し、どこが中心になってその問題を検討するのかということが明確になっていないという課題が残されている。NPO が主体となって医療通訳者の養成、派遣の役割の担っている地域では、医療通訳コーディネーターが重要な役割を果たす。MIC かながわでは１０名以上のコーディネーターが交替で勤務しており、通訳者のサポートが重要視されているといえる。現状では、職業としてではなくボランティアとして通訳者に支えられ

ているシステムである以上、通訳者へのサポートは不可欠である。このような状況に対し、医療通訳コーディネーターのための講座も登場している。

(2)日本各地において医療通訳派遣事業、通訳者養成講座が増加しつつある。これらの受講対象者はすでにある言語の上級レベル（欧州参照枠での B2 レベル）の運用能力を有する者を対象としており、言語学習は講座シラバスに組み込まれていない場合が多い。組み込まれていてもロールプレイ（実技）としてであり、語彙の習得方法、学習媒体、周辺知識の身に着け方は個人の学習に任されている。また、この間、厚生労働省の補助金により多文化共生センターきょうとが作成した『医療通訳』(2014)と沢田貴志監修『医療通訳学習テキスト』（創英社、2015）が出版され、高い評価を受けている。これらに共通するのは、各言語に共通する通訳倫理および基本的な医学知識が学習内容の中心となっている。本研究ではこれまでにない試みとして、中級（欧州共通参照枠 B1 レベル）以上のスペイン語学習者を対象とした講座において使用できるような医療通訳教材開発をすすめる。とくに、国や地域により異なる医療文化にも注目し、医療文化に関する知識をどう理解し、どう知識として身につけるかについても学ぶ事ができる教材をめざしている。そのため、知識や語彙を増やすための読解、異なる医療文化の理解に向けた討論なども学習項目としてもうけている。各課について、疾患ごとにテーマ設定を行い、導入、読解、語彙習得、ロールプレイのためのダイアローグ、応用文法、文化理解の 7 項目で構成している。医療通訳者の協力を得るなど、内容をできるだけ実情に近づけるよう工夫した。また、あいち医療通訳システムの派遣方法をモデルとし、ロールプレイの場面を設定している。本システムが再診や入院患者を対象とした通訳派遣であることから、重い疾患や複雑な治療もテーマとして扱っている。現在、試作版が複数の講座で使用されている。

(3)日本とほぼ同時期に外国からの移民が急増したスペインでは、2015 年現在総人口の約 10 パーセントが外国籍住民である。2011 年まで増え続け、一時は 12%近くまで増加した。地域によっては人口の 4 分の 1 が外国籍住民というところもある。非スペイン語圏出身者も多く、国家公用語であるスペイン語や地域公用語の運用能力が十分でない住民が増加した。公共サービス機関でコミュニケーション不全が起きているという調査結果から、1990 年代外国籍住民支援として異文化メディエーションという概念が登場する。移民と公的機関の担当者、地元住民の間の通訳／問題解決のサポートなどを通して双方向の理解の促進すること、また社会的弱者のエンパワーメントをサポートすることで地域社会の発展へとつなげていく専門家としての第三者の介入を指す(糸魚川 2015a，90)。2000 年代前半までにこれを実践する団体（民間非営利団体）と専門的職業としての異文化メディエーターが増加した。2008 年の世界的な経済不況により雇用が激減し、職業としての維持が困難となっている。しかし、この不況により、移民の問題とされていたことが地元住民の問題ともなり、異文化メディエーションはコミュニティメディエーションへとそのあり方が変化しつつある状況も確認した。異文化メディエーションでは、地域社会に変化を求めることが重要であり、個々のケースに対応するだけでなく、地元住民、弁護士や医療関係者、教員に対する異文化理解の働きかけをすることで、トラブルの予防になると考えられている。この点は医療通訳やコミュニティ通訳、日本における多文化ソーシャルワーカーと異なる点である。

引用文献

糸魚川美樹(2015a)「文化の仲介者たち–スペインのおける公共サービスの実践と課題」竹中克行編著『グローバル化と文化の境界』昭和堂、pp.82-98

糸魚川美樹(2015b) 「あいち医療通訳システムの現状と課題」『ことばと社会』17 号、三元社、pp.214-223

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4　件）

①糸魚川美樹、あいち医療通訳システムの現状と課題、ことばと社会、査読有り、17 号、2015、pp.214-223

②糸魚川美樹、医療分野語学講座の実績とあいち医療通訳システムにおける役割を考える、愛知県立大学外国語学部紀要（言語・文化編）、査読無し、47 号、2015、pp.175-188

③糸魚川美樹、愛知県立大学「医療分野語学講座」の取り組みと課題、『(報告書）医療通訳・コーディネーターの育成　大学教育カリキュラムの可能性』、査読無し、2015、pp.59-68

④糸魚川美樹「スペイン語における「女性の可視性」をめぐる議論」社会言語学、査読有り 14 号、2014、pp.141-154

〔学会発表〕（計　1　件）

①糸魚川美樹「スペイン語の集合名詞について」関西スペイン語学研究会、2015 年 12 月 13 日、キャンパスプラザ京都

〔図書〕（計　6　　件）

①糸魚川美樹「法律における「性」の記述」堀田英夫編著『法生活空間におけるスペイン

語の用法』ひつじ書房、2016、177-200

②糸魚川美樹「多様化する住民と地域　−愛知とバルセロナの事例から」上川通夫・川畑博昭編著『日出づる国と日沈まぬ国−日本・スペイン交流 400 円』勉誠出版、2016、327-346

③糸魚川美樹、文化の仲介者たち−スペインのおける公共サービスの実践と課題、竹中克行編著『グローバル化と文化の境界』昭和堂、2015、pp.82-98

④糸魚川美樹、愛知におけるラテンの言語と文化、愛知県立大学歴史文化の会編『大学的愛知ガイド−こだわりの歩き方』、2014、239-253

⑤糸魚川美樹、カタルーニャ女性の社会進出、立石博高・奥野良知編著『カタルーニャを知るための 50 章』明石書店、2013、222-226

⑥糸魚川美樹、国内外から流入する移民、立石博高・奥野良知編著『カタルーニャを知るための 50 章』明石書店、2013、233-237

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
糸魚川　美樹（ITOIGAWA, Miki　　）
愛知県立大学・外国語学部・准教授
研究者番号：10405152

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
サラ・カハ、リディア（SALA CAJA, Lidia）
愛知県立大学・外国語学部・准教授
研究者番号： 80649905